

防災委員からのメッセージ

防災委員（二丁目副区長 井上真一）



「他人事ではない」

今年も、大きな自然災害が、全国各地で発生しました。元日には、能登での地震、まだ復興もままならないうちに、激甚災害に指定される程の集中豪雨に能登の人達も、風光明媚なこの地に、年二回も大きな災害が襲うとは思ってもいなかったことでしょう。

8月に日本を翻弄した台風10号、ノロノロとした動きと、予想が読めない動きで、九州地方での被害と、遠く離れた、東海、関東にも、大雨をもたらしました。線状降水帯と呼ばれる気象用語が、頻繁に使われました。非常に激しい雨が、長時間にわたり、しかも、狭い範囲で降り続くというものです。1日の雨量が、1か月に降る量にも匹敵するというそして、その間、風も強く、木々がなぎ倒され、車さえ横転するという状況を、テレビで幾度となくみました。側溝から水が噴き出し、土砂災害が発生し、長期間の停電、断水と。一見よその地方で起きていると、**他人事**と捉えがちですが、地震も、線状降水帯も、場所を選びません。そこで大切なのが、自分自身で備えをする。「自助」です。例えば、①非常食・水・薬の備蓄 ②避難経路の確認 ③家族やご近所との連絡方法の確認又、「地域の防災訓練」に積極的に参加していただき、実際に避難行動等の体験をしていくことが、自らを、そして、大切な家族を守ることになるのではないのでしょうか。準備は日々の安心感につながる。ここから始めましょう。

防災訓練実施しました

令和6年度城山校区自主防災訓練が、10月13日（日）3地区59人参加のもと城山公民館で開催されました。校区3自主防災会協力のなかで、見晴台自主防災会が当番幹事を務め群馬地方協力本部高崎地域事務所による防災講話と陸上自衛隊式応急処置について指導を受けました。

<講話> 講師 群馬地方協力本部高崎地域事務所長 宮本直樹2 陸尉様

演題 「災害・危機に備える」～危機管理の視点から～

スライドにより地震、洪水、土砂崩れ、地滑りの画像による被害状況の説明と自衛隊災害派遣の支援形態として給食支援・給水支援・医療支援・入浴支援・人命救助についても説明を受けました。印象に残った支援として入浴支援の方法で入浴だけでなく被災者の入浴中に衣類を洗濯乾燥し入浴後に着用できるよう仕上げる。建物倒壊・土砂災害の人命救助は、72時間手作業で救助活動し重機の使用はしない。などありました。

宮本所長より防災グッズとしてポンチョ・ホイッスル・サランラップ（怪我の応急処置用）3点のお勧めがありました。

<応急処置> 講師 高崎地域事務所広報官 堀越正様 佐野様 染谷様

タオル・割り箸を使用した止血方法 新聞紙・タオル・ポリエチレン袋を使用した骨折箇所の固定方法 伸縮型物し竿と毛布を使用した担架の作り方など指導を受けました。以上訓練80分の概要でした。3年の間の校区防災訓練として消防組織・警察組織・自衛隊組織の指導を受けたことになりました。



高崎市水道局を訪問しました

9月26日防災部会長ほか有志で高崎市水道局を訪ね城山校区の水道インフラについて確認してきました。改めて各家庭の水の備えの重要性を再認識しました。以下に要点を列記します。

＜貯水槽＞・中山峠入口にある水道ポンプが生命線ここは若田浄水場から繋がっている。（若田浄水場が止まれば、ここも止まる）・ポンプは2台（1台予備）15年毎に更新している。自家発電設備あり。ここを起点として、一番高いところにある貯水槽（容量約630トン）に揚水している。ここからみどりが丘を含めた4町内に配水している。この容量は4町内の約1日分に相当。震度計があり震度6以上で元栓が閉まる。その他に3か所流量計があり、水量の監視をしている。異常があれば若田浄水場管理施設に情報が上がる。

＜災害発生時に町内で流量計異常を検出した場合＞若田浄水場の管理者から現地調査の指示が出て、その結果で各所に通達、広報となる。（この段階で城山校区区長にも連絡して頂くよう要望しました） 災害で高層、中層の揚水ポンプが停止した場合、高層タンク、中層タンクの水は手動では使えない。ポンプ施設は水道局の所管外である。（県の住宅供給公社）

＜給水車＞高崎市保有は現在3台、今年2台追加予定。仮に給水車が来た場合、個人用配布用ポリタンクは6リットルをいくつか用意しているが、足りないので町でも準備をしたほうが良い。6リットルと言えども高齢者が自前で運ぶのは無理と思われ、どうやって自宅まで届けるかを町の防災活動の課題としました。

防災アンケートを実施しました

9月1日付けで第2回防災アンケートを実施しました。ご協力ありがとうございました。実施結果は11月1日付けで回覧していますのでご確認をお願い致します。ここでは要点をお伝えいたします。

・アンケート回答数284件 約38%の方々にご回答いただきました。ご回答頂いた70%が70代80代の方々、二世帯が50%、一世帯が23%でした。「高齢者の視点に立って高齢者ができる防災活動」を広げていく事を再認識しました。・災害情報に触れる機会が増え、他人事ではないとの意識が高まり、各家庭の防災への取り組みは浸透しつつあると思います。

・今回のアンケートは以下の10項目でした。まずは飲料水の備蓄から初めて見ましょう。その備蓄方法は箱買いがお勧めですよ。生活水対策としてお風呂の水の活用、食料備蓄は日常食＋非常食で、長時間停電の備えは大丈夫ですか、非常用トイレを備えましょう、町の備蓄は避難者用ですね、避難方法はまずは在宅避難が出来るように、避難場所の再確認、最後に自助マニュアルはありますか。

・今回のアンケートの狙いは、各家庭の実情確認、日頃の取り組みを再確認していただく事でした。如何でしたでしょうか。アンケート結果を回覧していますのでご確認いただき、これはと思われた備蓄について、さっそく行動に移して頂きますようよろしくお願い致します。

・73件のご意見を頂きました。防災部会で共有化し、今後の活動に反映いたします。

始めましょう防災備蓄！ 非常用簡易トイレを備えましょう！

災害時、在宅避難時に簡易トイレの必要性は案外知られていません。長時間停電、断水で在宅避難が2日、3日さらに続いた場合にトイレの問題が出てきます。トイレに流す水もなくなりトイレが流せない！ そんな時、簡易トイレが備えてあれば助かります。

簡易トイレの仕組みは簡単です。便器にかぶせて用を足すビニール袋と水分を固める凝固剤がセットで50袋から100袋（このみんなのトイレは60袋）入った状態で売っ

ています。この凝固剤で尿、便を固めます。その後、袋ごと別に要したゴミ袋に入れます。ご家庭の人数を考慮して必要数を備えましょう。（このコーナーは自助マニュアルに沿って紹介してます。）



編集後記 温暖化で太平洋日本近海の海水温が高くなっています。台風10号の動きは今までにないものでした。過去に例のない場所での災害が増えています。わが町も備えましょう。（編集委員）